

科目コード ENV021241

科目名	観光ビジネス特論 Tourism Management	選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・土・集中	-	-
担当教員名	赤堀 浩一郎	e-mail	
講義形式	ハイフレックス（教員は学外から講義を実施するが2 回程度は講義室から行う場合がある。）※対面履修生は全回講義室から参加		
<p><講義の概要と目的></p> <p>本科目は 21 世紀のリーディング産業と呼ばれる観光産業を取り上げる。現在、我が国がすすめる観光立国政策における柱は訪日観光（インバウンド）の推進であり、インバウンドは順調に量的拡大を続けていたが、2020 年冬以降の Covid-19 の拡大により全世界の観光需要は一気に縮小し、我が国の観光産業もかつてない大きな打撃を受けることとなった。その後、ワクチンや治療薬の開発・普及、医療体制の構築、また経済的・社会的要請により、観光客は回復しており、コロナ以前のレベルに達しつつある。一方、国際観光需要が本格的な回復をする日を見据え、「新たな日常」に対応する「新たな観光」のあり方の模索も始まっている。一気に拡大したインバウンド観光の弊害（オーバーツーリズム、訪問先や訪問時期の偏りなど）が顕在化してきたなかで起きた今回の「観光の中断」ともいえる状況下で、今後の観光立国とはどうあるべきか、観光事業が国や地域を豊かにするためにはどのようにビジネスに取り組むべきか、再考すべき機会であるともいえるだろう。</p> <p>一方、Covid-19 拡大以前から指摘されてきた課題としては、①従来日本人による国内旅行および海外旅行（アウトバウンド）を主要なビジネスとしてきた日本の観光産業がインバウンドに対応するための変革、②政府や自治体によるインバウンド受け入れ態勢の整備、などが挙げられる。</p> <p>これらの新旧の課題に向き合い、多様化・高度化する旅行者ニーズを日本各地の観光関連事業者が取り込み、インバウンドの経済効果を地方や中小規模事業者にまで行き渡らせるための取り組みが求められる。</p> <p>そこで講義では、現在の観光産業の諸特徴と課題を整理したうえで、インバウンドに関わる各種のケーススタディを通して、観光立国を実現するための実践的手法を考察していきたい。さらに期末には新観光事業企画を作成・発表する場を設け、自ら主体的に観光ビジネスを作り出す力を養成する。</p> <p><到達目標></p> <p>受講者は本科目を履修し、必要な学習課題に取り組むことにより、以下の<学習到達目標>を達成することが期待される：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光産業および観光商品の特徴と課題を理解する。 2. 観光が国や地域社会にもたらす各種の影響を踏まえたうえで、地域でインバウンドに取り組む際に重要となる考え方について理解し、その実践過程における課題を認識し、解決のためのアプローチを考えることができる。 3. インバウンド観光の商品づくりの特徴と課題を理解し、自ら提案することが出来る。 4. 観光産業における体系的なマネジメント分析の方法を理解し、更には課題について解決のためのアプローチを考えることが出来る。 <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>講義内において取り扱う各テーマについてグループディスカッションを行う。また最終講義日にはグループでのプロジェクトの発表を行う。</p>			

<講義計画>

1回目：観光産業へのイントロダクション①

- ・要点：観光産業の現状と課題について①

2回目：観光産業へのイントロダクション②

- ・要点：観光産業の現状と課題について②

3回目：観光産業へのイントロダクション③

- ・要点：各業界別トレンドについて（旅行業界、宿泊業界）

4回目：地域と観光①

- ・要点：観光は誰のためのもの？

5回目：地域と観光②

- ・要点：地域のアイデンティティと観光

6回目：地域と観光③

- ・要点：地域資源の再編集と商品化

7回目：インバウンド産業概論①

- ・要点：インバウンドの現状と課題について（国の視点）

8回目：インバウンド産業概論②

- ・要点：インバウンドの現状と課題について（地域の視点）

9回目：インバウンド産業概論③

- ・要点：インバウンドの現状と課題について（訪日客の視点）

10回目：インバウンドビジネスマネジメントスタディ①

- ・要点：インバウンドビジネスの導入ステップと改善サイクル

11回目：インバウンドビジネスマネジメントスタディ②

- ・要点：先進事例スタディ

12回目：インバウンドビジネスマネジメントスタディ③

- ・要点：Covid-19による観光ビジネスの環境変化について

13回目：受講生によるプレゼンテーションと講評

- ・要点：グループプロジェクトの発表（インバウンド観光商品の提案）

14回目：受講生によるプレゼンテーションと講評

- ・要点：グループプロジェクトの発表（インバウンド観光商品の提案）

15回目：受講生によるプレゼンテーションと講評

- ・要点：グループプロジェクトの発表（インバウンド観光商品の提案）

<講義の進め方>

講義とケーススタディを組み合わせる。ケーススタディではグループ討論および全体討論を行う。

<事前事後学修内容>

都度の講義に関連したリサーチやミニレポート等の事前課題を付与する。詳細は講義時に指示する。事前に配布する資料を必ず読んでから講義に参加すること。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示する。

<教科書及び教材>

コメントの追加 [番号1]: ですます×

訪日観光の教科書（高井典子・赤堀浩一郎著、創成社）2014年
<p><参考書> 適宜講義内で紹介する。</p>
<p><成績評価方法> 期末個人レポート 30%、期末個人プロジェクト 30%、事前課題 10%、講義への貢献度 30%（講義中の発言、討論への貢献度の総合評価） 欠席 6 回以上は成績評価しない。</p> <p><課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法> 事前課題ならびに期末プレゼンテーションは、各講義中に全体のフィードバックを行う。</p>
<p><履修条件> 多くのケース資料をしっかりと読み込んで、毎回、講義中に積極的に発言を行うこと。</p>
<p><ディプロマポリシーとの関連> アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当</p>
<p><録画映像の視聴> 可</p>
<p><オフィスアワー> 非常勤のため随時 e-mail にて連絡すること。</p>
<p><その他> 毎回の講義でグループおよびクラス討論を行うので積極的な姿勢で講義に臨むこと。また、期末プレゼンテーションならびにレポートにそなえて日々関連する経済記事をチェックするように心がけること。</p>